

第 2 章 都市の現況

1. 津市を取り巻く状況

1-1 位置と圏域

本市は、三重県の県庁所在地であり、北は鈴鹿市、亀山市、西は名張市や伊賀市、奈良県、南は松阪市と接しており、東は伊勢湾に臨み、三重県の中央部を横断するように位置しています。面積は711.19km²で、三重県内の市町の中で最も広い面積を有しています。

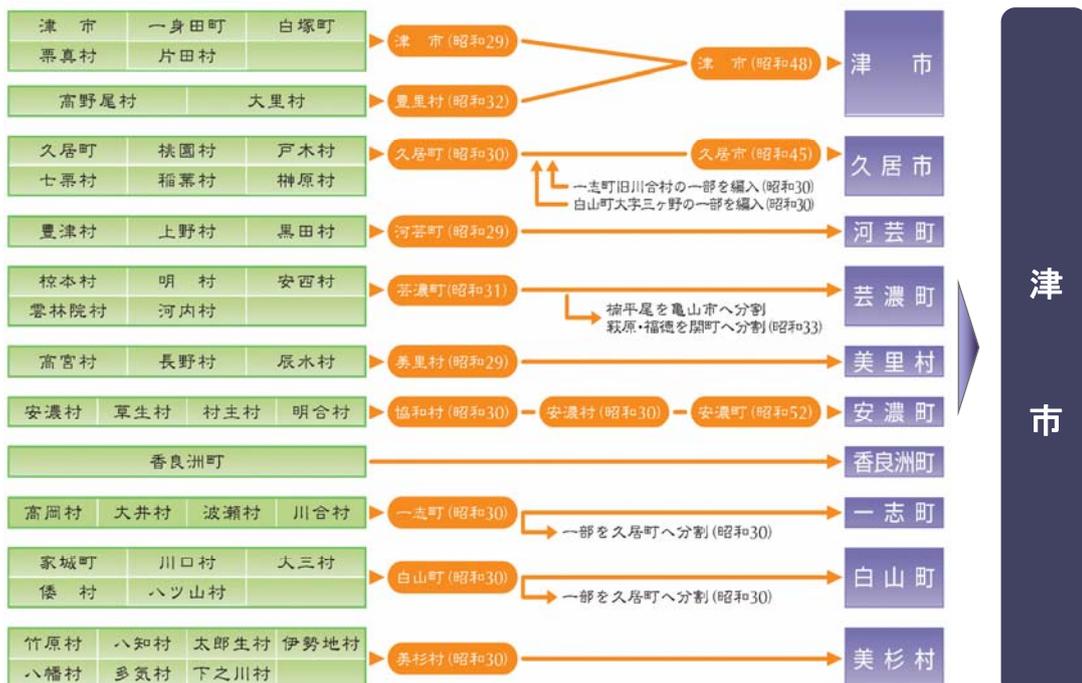


■津市の位置

1-2 津市の沿革

本市は、江戸時代には大部分が藤堂藩（津藩、久居藩）に属しており、300 余りの町や村があったといわれています。

明治 21 年公布の市制・町村制により、本地域は 1 市 2 町 53 村が誕生し、その後、昭和の大合併を経て 2 市 6 町 2 村となり、平成 18 年 1 月 1 日の合併により現在の津市が誕生しました。



■津市の沿革

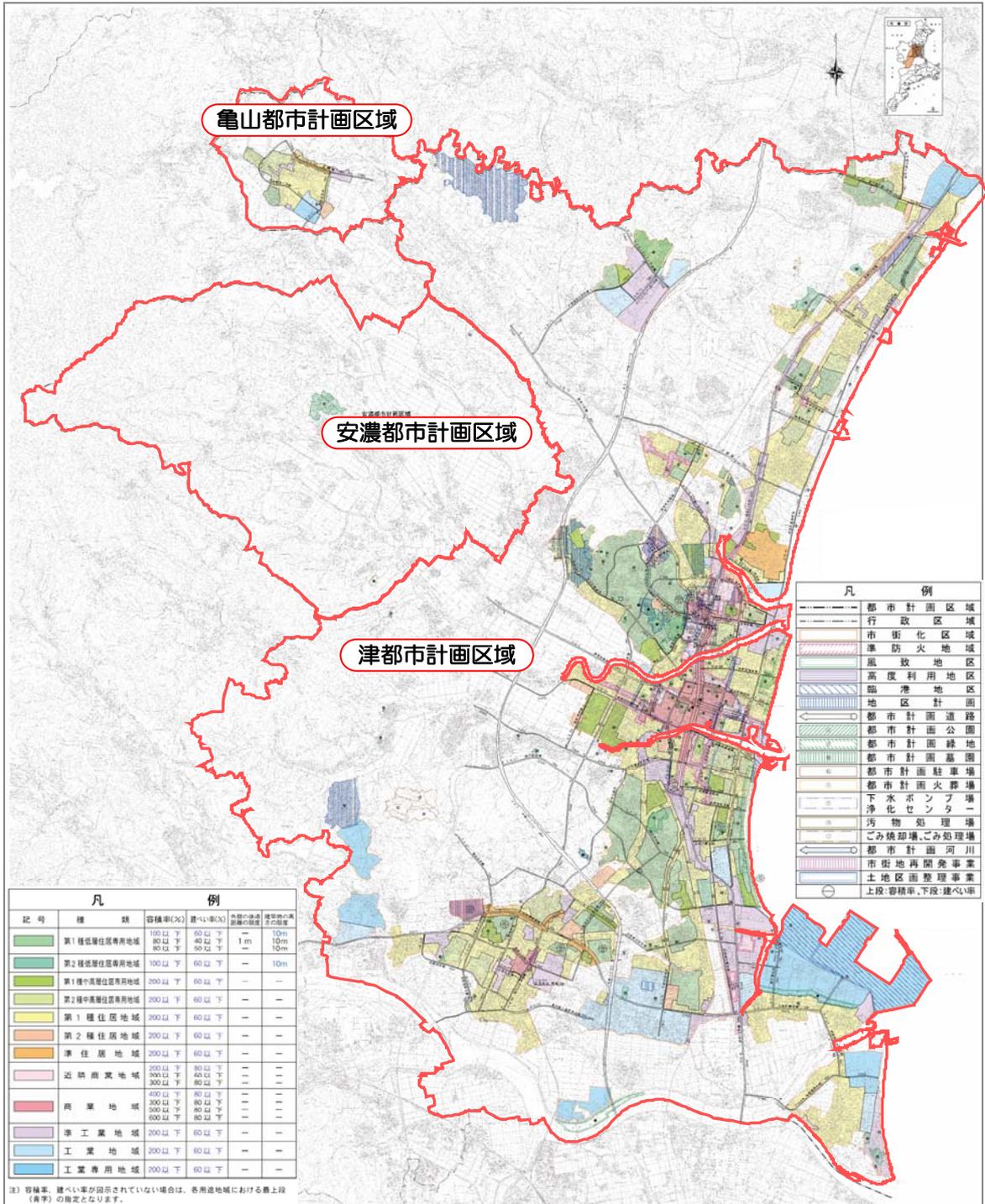
2. 土地利用規制の状況

2-1 都市計画区域

(1) 都市計画区域と区域区分（線引き）

本市の都市計画区域の状況は、津都市計画区域は線引き都市計画区域、亀山都市計画区域（芸濃地域の一部）は非線引き都市計画区域（用途地域指定有り）、安濃都市計画区域は非線引き都市計画区域（用途地域指定無し）となっています。

津都市計画区域については、昭和 45 年に区域区分制度を導入して以来、約 50 年もの間にわたり線引きを継続しています。



資料：津市都市計画図（H28.8）

■ 都市計画区域の状況

3. 都市の動向

3-1 人口・世帯数

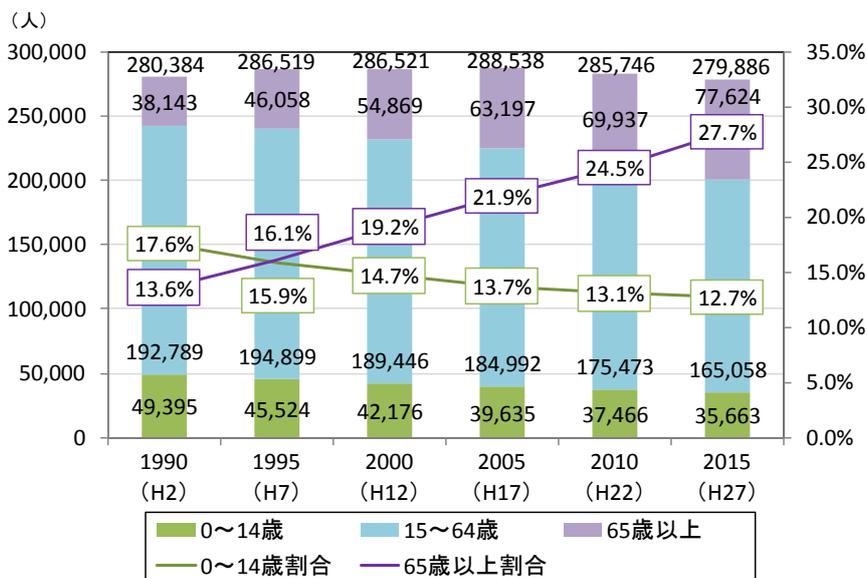
(1) 総人口・年齢別人口・地域別人口

国勢調査による平成2年からの総人口の推移をみると、平成17年の288,538人をピークに減少し、平成27年の本市の総人口は279,886人となっています。

年齢3区分別人口をみると、15歳未満の年少人口は年々減少し、平成27年には35,663人(12.7%)となっています。

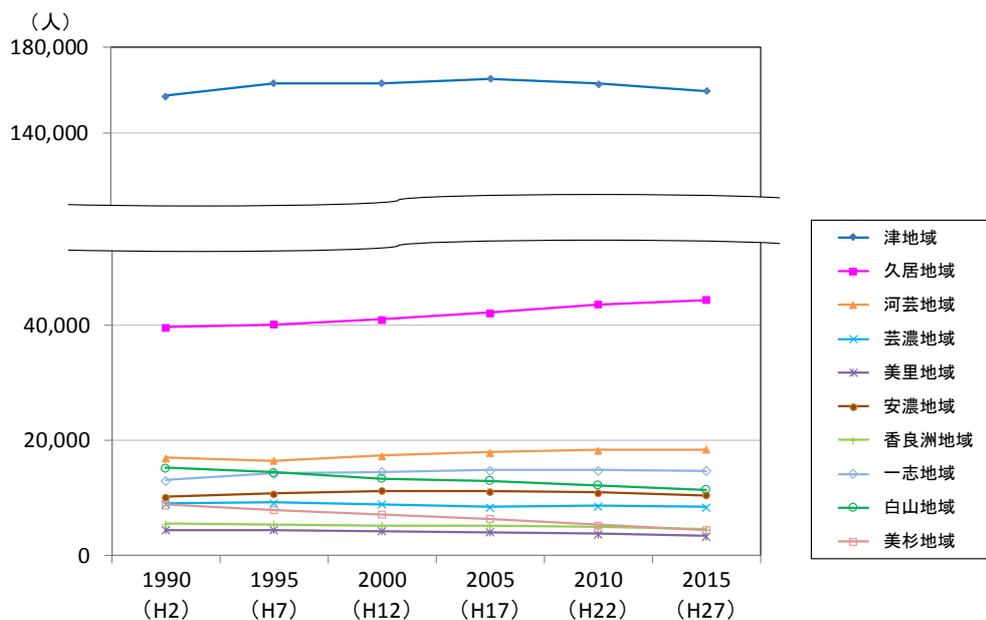
一方、65歳以上の高齢人口は年々増加し、平成27年には77,624人(27.7%)となっています。

地域別にみると、久居地域、河芸地域では増加していますが、その他の地域では減少しています。



※総人口の数値は「年齢不詳」を含むため、各年齢層の合計値とは一致しない
資料：国勢調査(H2~H27)

■年齢3区分別人口推移



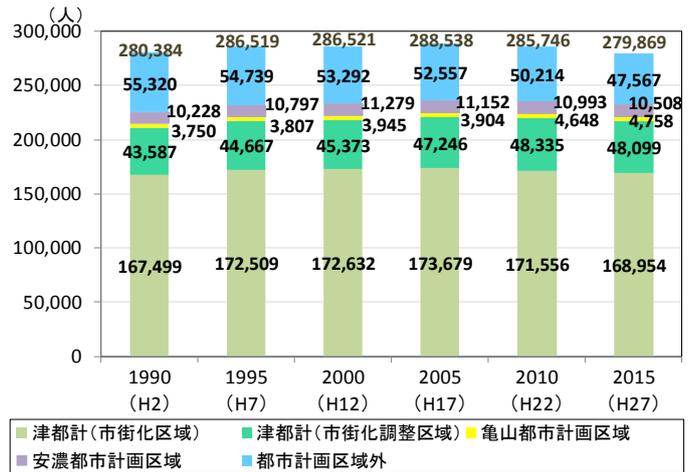
資料：国勢調査(H2~H27)

■地域別人口の推移

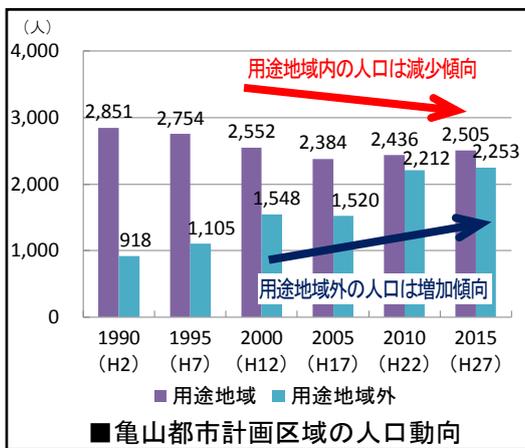
(2) 区域別人口

国勢調査による都市計画区域内の人口は、平成 17 年をピークにその後は減少しています。

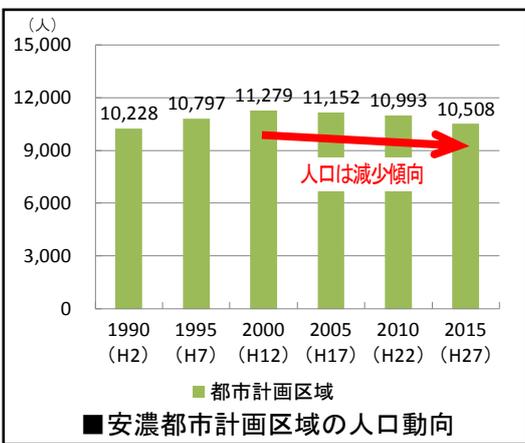
区域別にみると、亀山都市計画区域では増加していますが、その他の区域では減少しています。



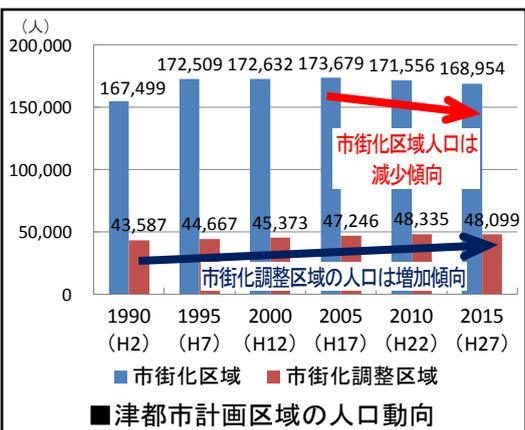
■区域別人口の推移



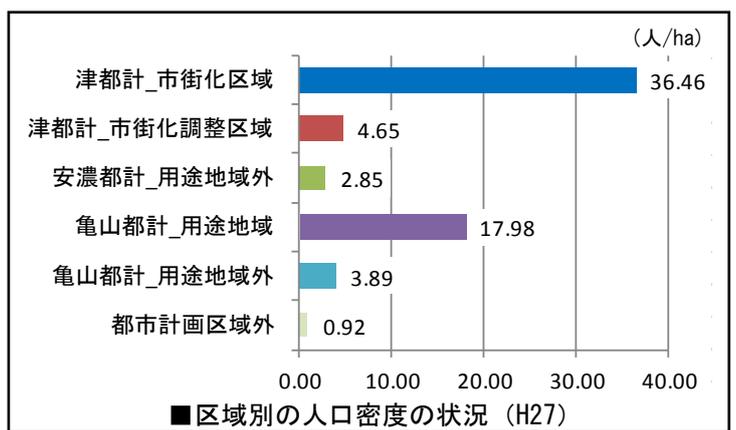
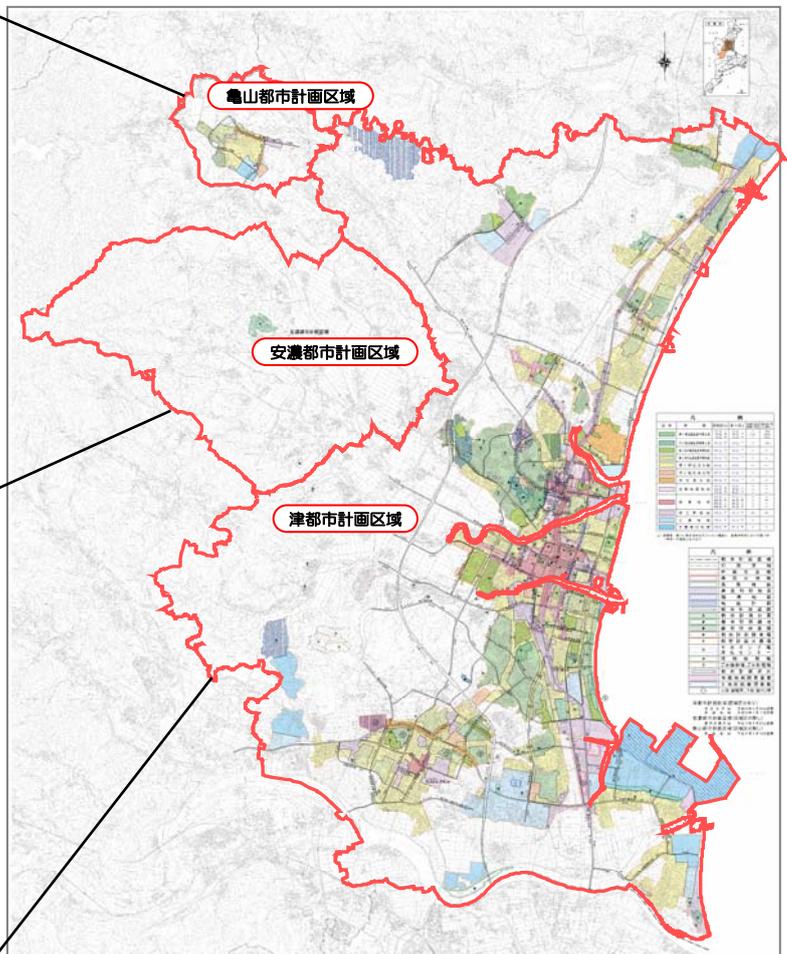
■亀山都市計画区域の人口動向



■安濃都市計画区域の人口動向



■津都市計画区域の人口動向



■区域別の人口密度の状況 (H27)

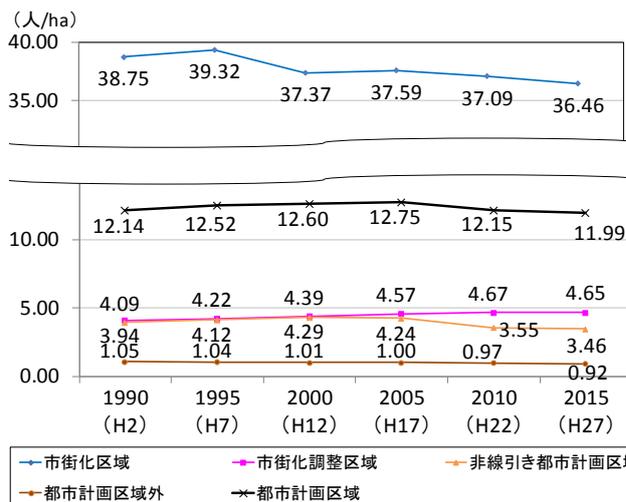
資料：国勢調査 (H27) 及び都市計画基礎調査 (H24・H29)

(3) 人口密度

平成 27 年の都市計画区域の人口密度は、11.99 人/ha で平成 17 年をピークに減少しています。

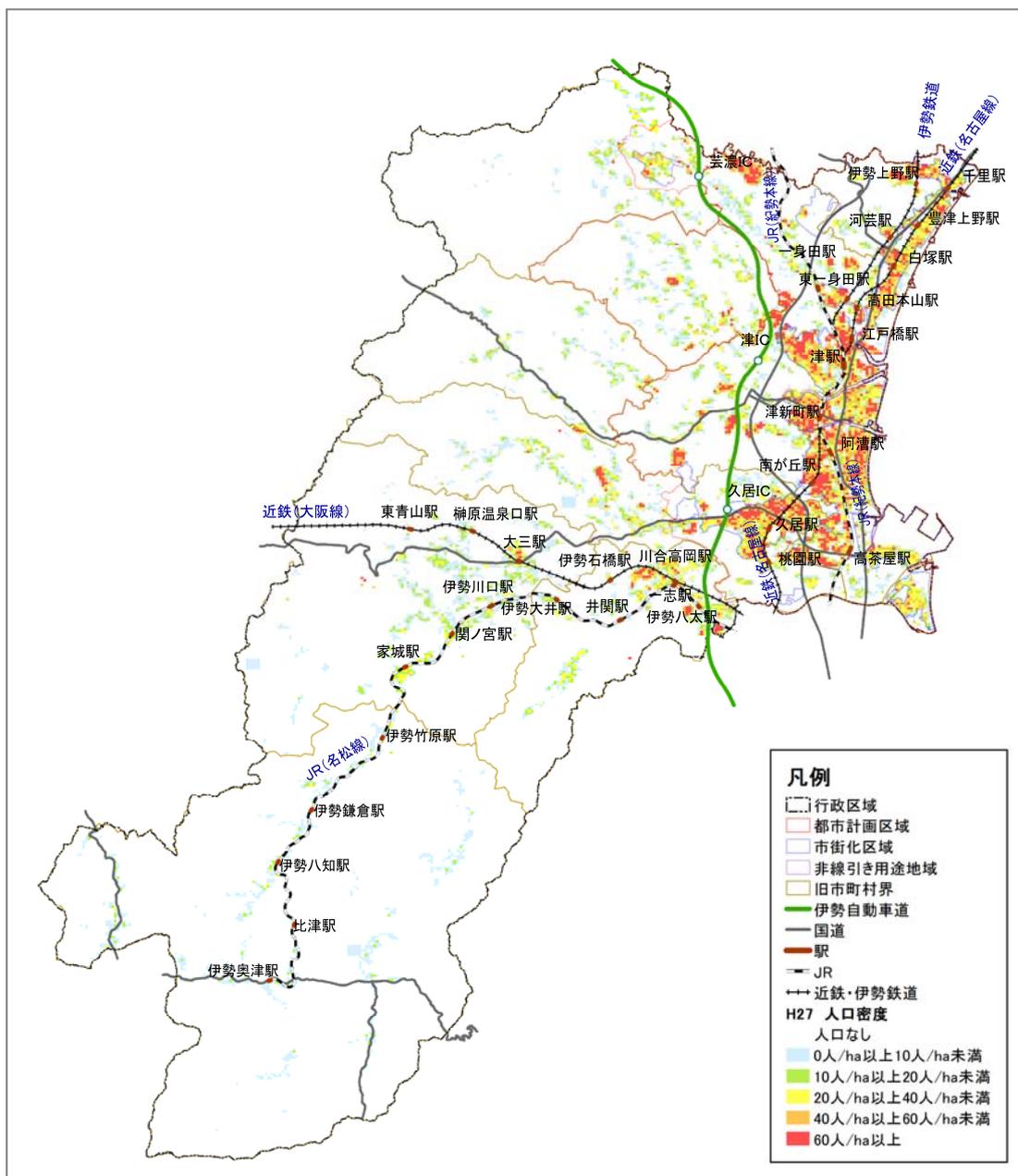
区域区分別にみると、市街化区域の人口密度は平成 7 年までは増加していましたが、その後は減少傾向となっています。非線引き都市計画区域でも平成 12 年をピークに減少が続いています。

一方で、市街化調整区域では平成 22 年までは増加が続いていました。



資料：国勢調査（H27）及び都市計画基礎調査（H24・H29）

■人口密度の推移



資料：国勢調査（H27）

■人口密度の状況

(4) 世帯数

国勢調査による平成 27 年の本市の総世帯数は 114,679 世帯で、平成 22 年と比べ増加しています。

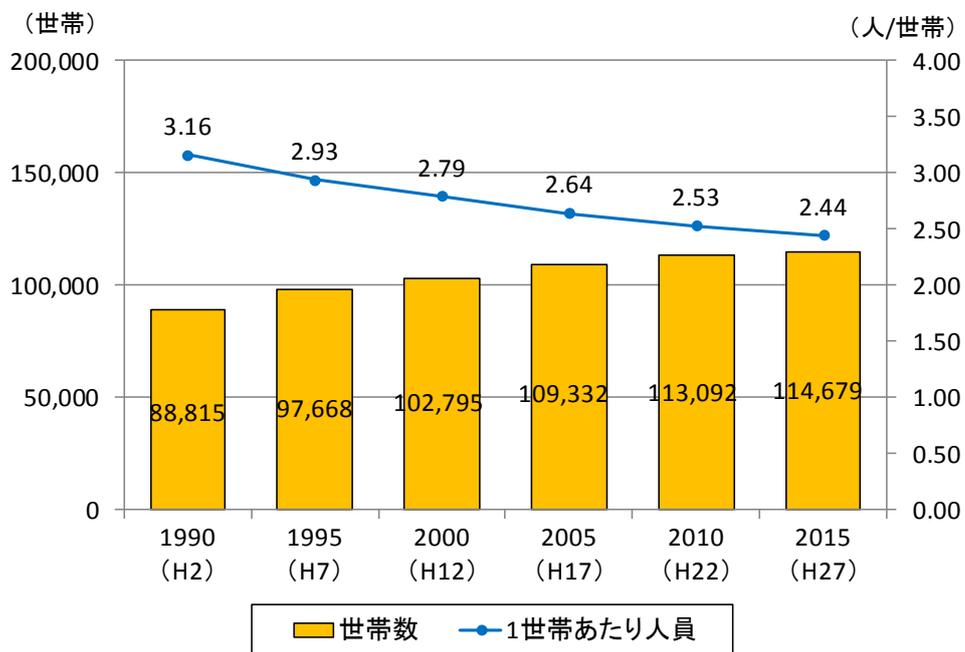
地域別にみると、久居地域、河芸地域、芸濃地域では、高い伸びを示していますが、美杉地域では減少が続いています。

■地域別世帯推移

単位：世帯

	1990年 (平成2年)	1995年 (平成7年)	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)
津市	88,815	97,668	102,795	109,332	113,092	114,679
津地域	53,942	59,900	62,302	66,338	67,988	68,375
久居地域	11,993	13,163	14,230	15,487	16,771	17,598
河芸地域	4,753	5,096	5,803	6,383	6,779	7,183
芸濃地域	2,445	2,497	2,572	2,728	3,026	3,121
美里地域	1,171	1,227	1,239	1,257	1,264	1,237
安濃地域	2,611	2,985	3,357	3,475	3,727	3,793
香良洲地域	1,512	1,577	1,722	1,734	1,693	1,670
一志地域	3,696	4,431	4,789	5,175	5,364	5,516
白山地域	3,884	4,018	4,147	4,226	4,198	4,136
美杉地域	2,808	2,774	2,634	2,529	2,282	2,050

資料：国勢調査（H2～H27）



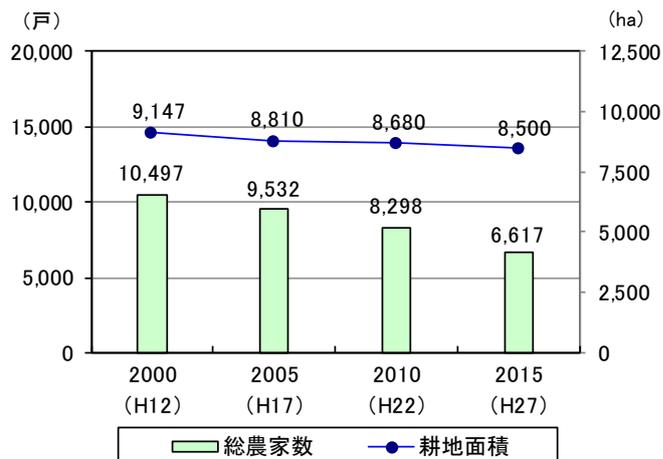
資料：国勢調査（H2～H27）

■世帯数・世帯人員の推移

3-2 産業構造

(1) 農業

平成 27 年の本市の総農家数は 6,617 戸、耕地面積は 8,500 ha となっており、総農家数、耕地面積ともに減少しています。



資料：農林業センサス (H12~H27)

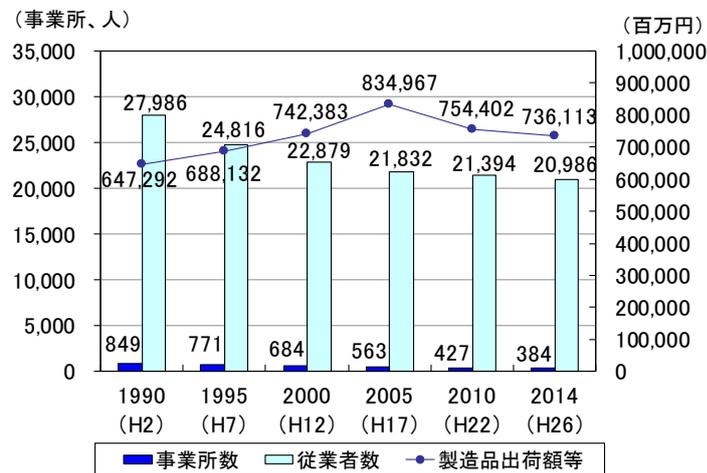
■農家数、耕地面積の推移

(2) 工業

平成 26 年の本市の従業者数は 20,986 人、製造品出荷額等は 7,361 億円となっています。

製造品出荷額等は平成 17 年がピークになっています。

事業所数、従業者数は減少が続いていますが、1 事業所当たりの出荷額は増加しています。



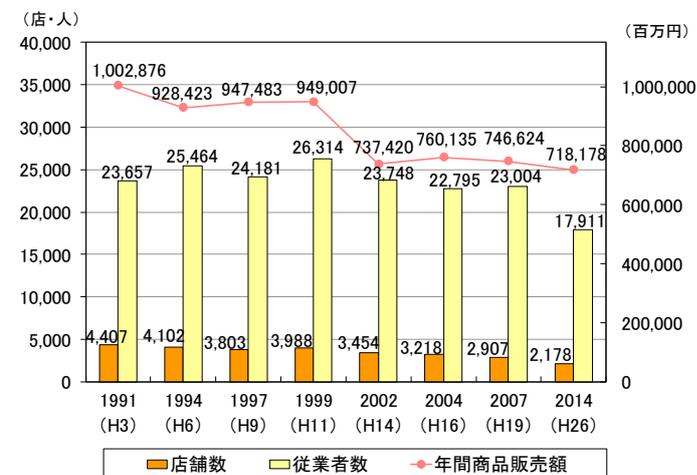
資料：工業統計調査 (H2~H26)

■事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

(3) 商業

平成 26 年の本市の店舗数は 2,178 店で、減少が続いています。

年間商品販売額は平成 11 年までは横ばいの傾向になっていましたが、平成 11 年から平成 14 年で大幅に減少し、以降は横ばいの傾向が続いています。平成 26 年の年間商品販売額は 7,181 億円となっています。



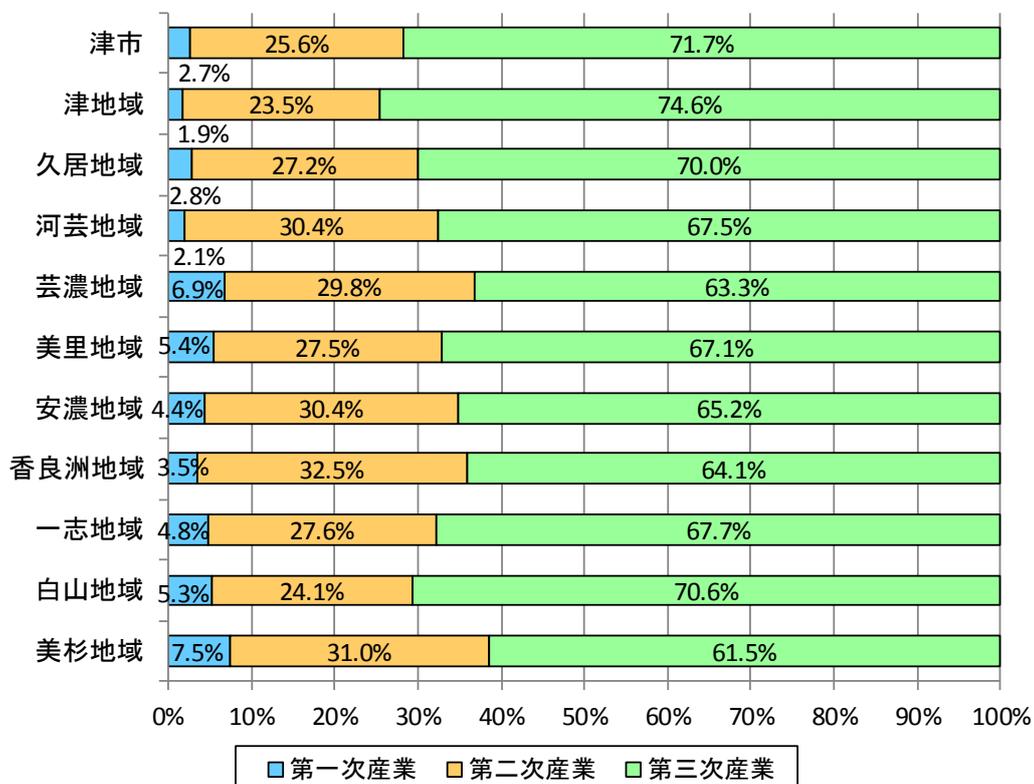
※平成 26 年調査は、平成 19 年調査までと調査対象が異なることから、同一調査として経年的な比較はできない

資料：商業統計調査 (H3~H26)

■店舗数、従業者数、年間商品販売額の推移

(4) 産業別就業者数

平成 27 年の産業別就業者人口は、津市全体では、第三次産業が 71.7%と最も多くなっていますが、地域によって、産業別就業者数の割合に違いがみられます。津地域では第三次産業の割合が高く、芸濃地域、美杉地域では他地域と比較して第一次産業の割合が高くなっています。

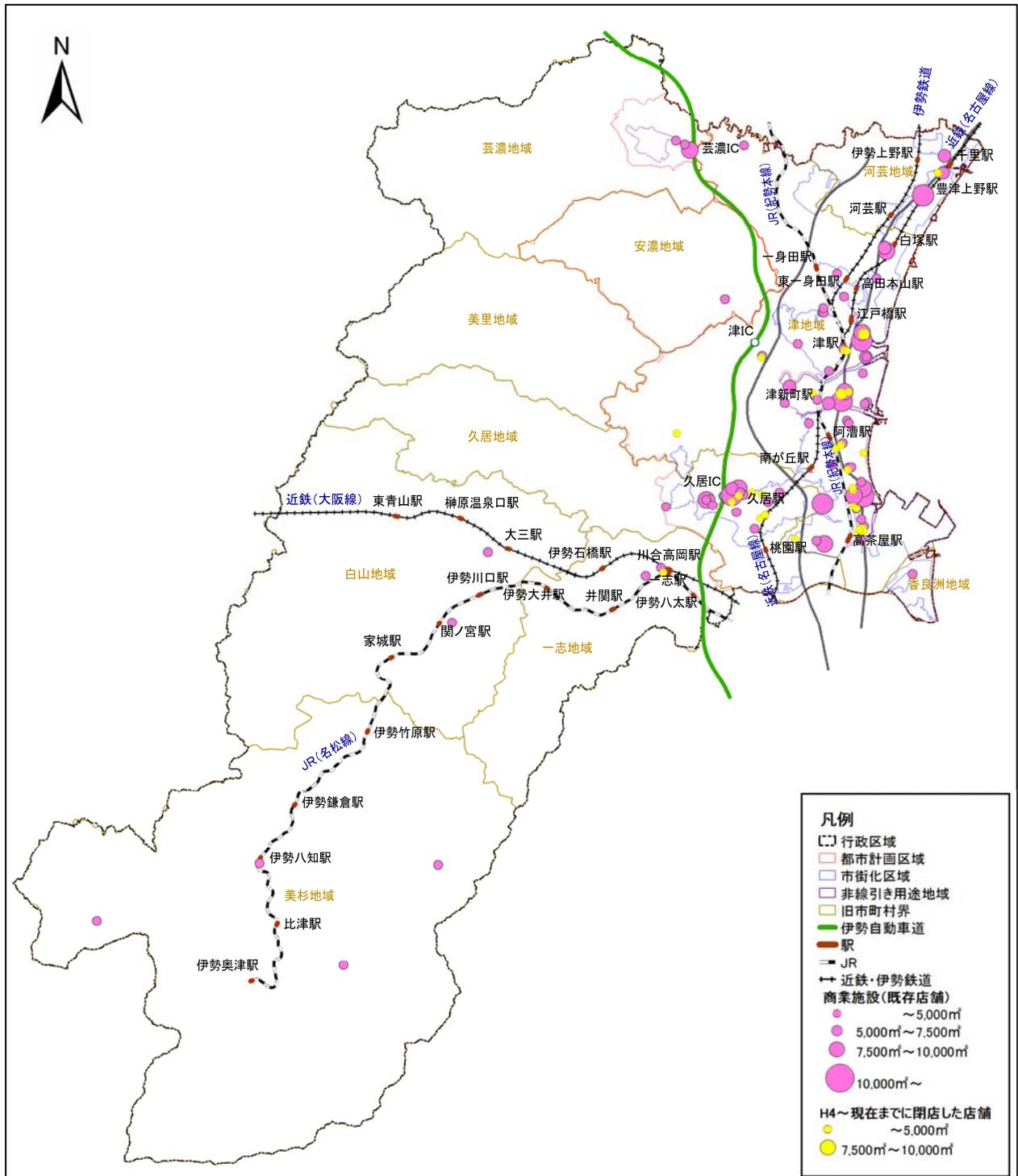


資料：国勢調査（H27）

■ 産業別就業者数の人口構成

(5) 大型小売店等の立地状況

平成29年全国大型小売店総覧等による専門店、総合スーパーなどの店舗立地状況をみると、一部亀山都市計画区域内に立地しているものの、その多くが津都市計画区域内を中心に立地しています。また、10,000㎡以上の大型店については、津都市計画区域においても国道などの幹線道路沿線に多く立地しています。



資料：全国大型小売店総覧（H29）及びスーパーマーケット総覧（H27）

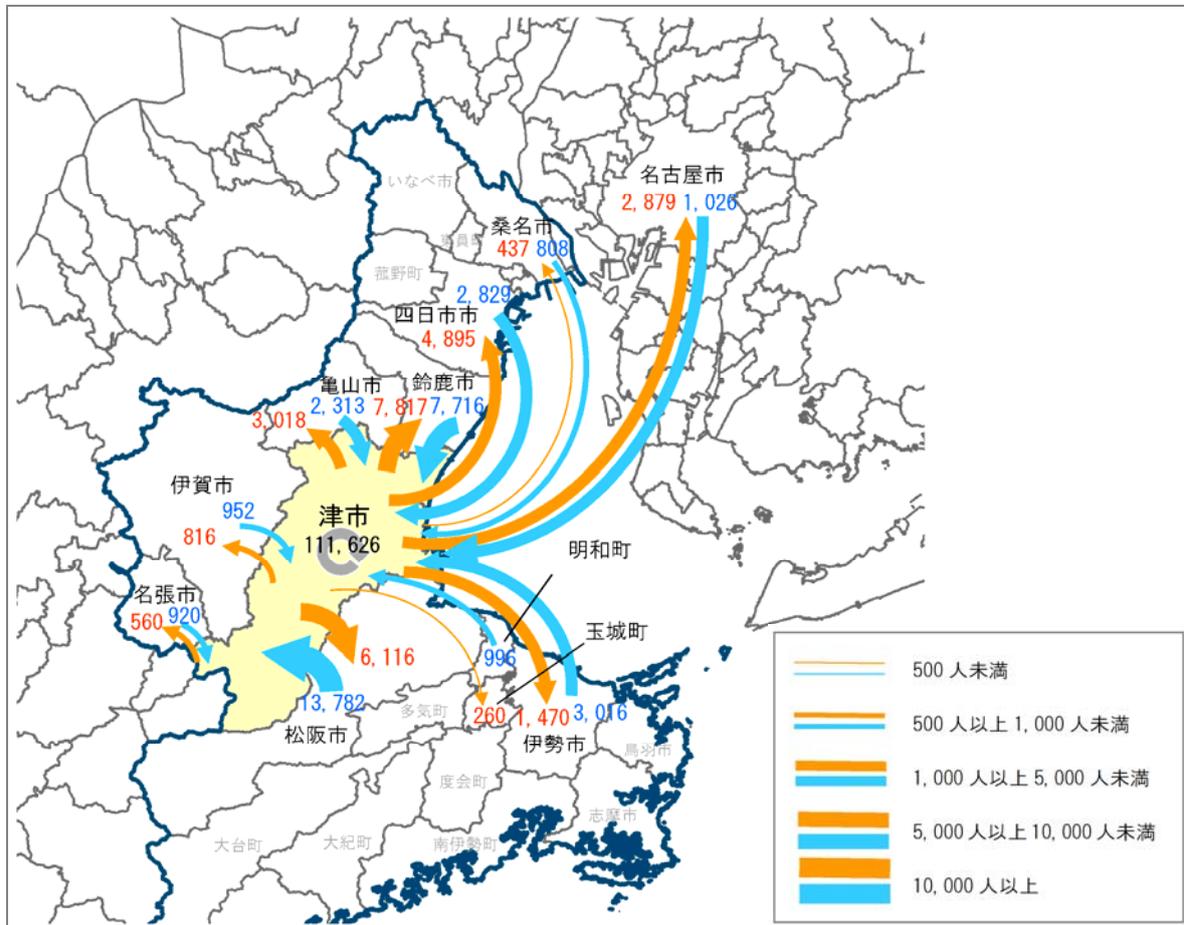
■ 大型小売店等の立地状況

3-3 日常生活の動向

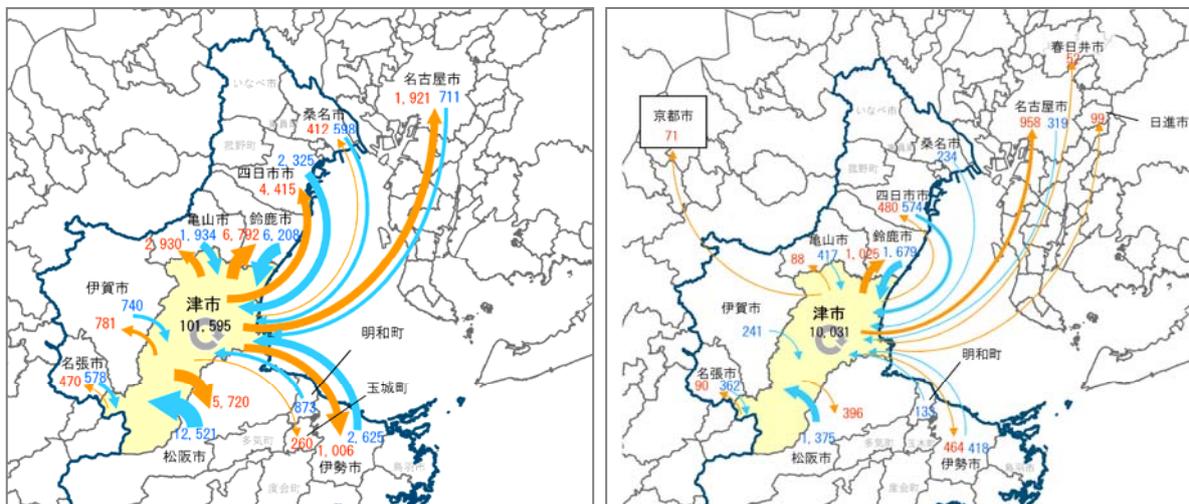
(1) 通勤・通学動向

本市の通勤・通学における流動総数をみると、市内での動きが流出・流入とも8割近くを占め、市内での移動が主となっています。一方、地域外への流出は鈴鹿市、市外からの流入は松阪市が最も多くなっているなど、隣接自治体とのつながりが強くなっています。

通勤・通学別にみると、おおむね似た傾向がみられるものの、松阪市からの流入（通勤38%、通学21%）や名古屋市への流出（通勤7%、通学21%）などにおいて差がみられます。



■通勤・通学動向



■通勤動向

■通学動向

資料：国勢調査（H27）

(2) 地域間の移動実態

1) 買い物の交通流動

「買い物」が目的の交通流動をみると、地域内での流動が多く、他地域に行く場合でも、隣接地域へ行く傾向がみられます。「美杉地域」については、名張方面への流動が多くなっています。



資料：津市地域公共交通網形成計画（H26）
 ■ 買い物の交通流動状況

2) 通院の交通流動

「通院」が目的の交通流動をみると、総合病院のある「津地域」や「久居地域」への流動が多くなっています。また、「美杉地域」は、他地域と比較して、名張方面や伊勢・松阪方面など、市外への流動もみられます。



資料：津市地域公共交通網形成計画（H26）
 ■ 通院の交通流動状況

3-4 土地・建物利用等の動向

(1) 地目別土地利用の動向

平成 27 年における地目別土地利用面積の割合は、市域のうち公有地を除くと山林が 26.3% と最も多いほか、次いで田・畑が 14% を占めているなど、多くの自然や田園といった土地利用が図られています。

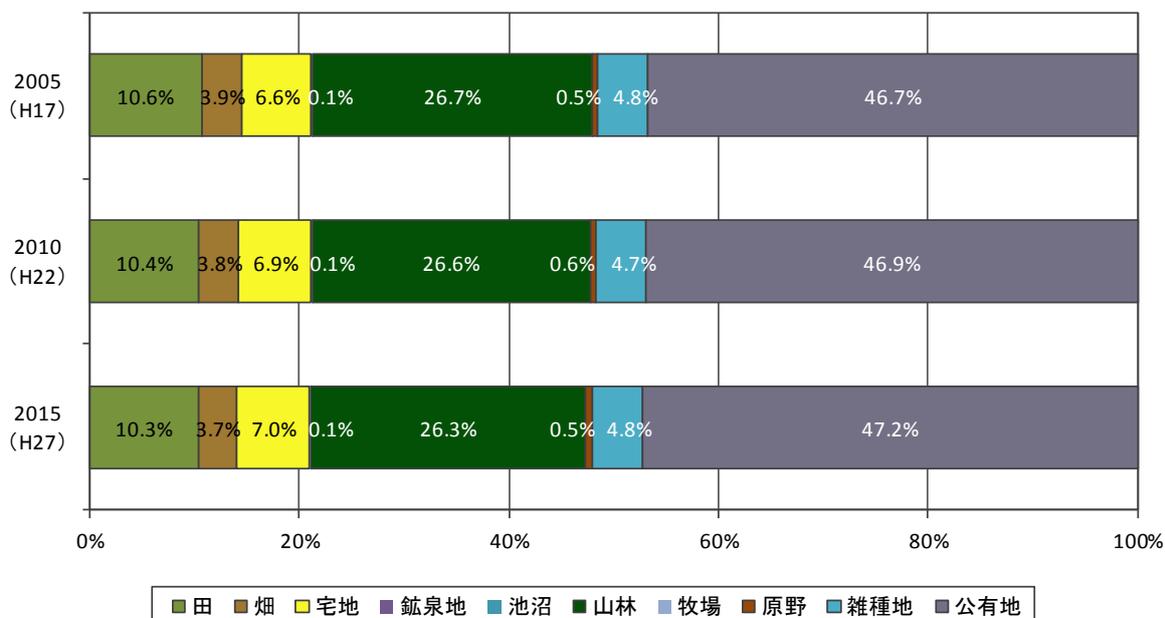
また、平成 17 年からの推移をみると、開発などによって田・畑や山林が減少している一方で、宅地の割合が増加しています。

■土地利用の推移

単位：ha

	田	畑	宅地	鉱泉地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	公有地	総面積
2005年 (平成17年)	7,557	2,788	4,690	0	55	19,006	0	380	3,401	33,202	71,079
2010年 (平成22年)	7,415	2,711	4,883	0	54	18,904	0	393	3,375	33,346	71,081
2015年 (平成27年)	7,325	2,647	4,947	0	47	18,716	0	386	3,447	33,596	71,111

資料：三重県統計書



資料：三重県統計書

■土地利用の推移

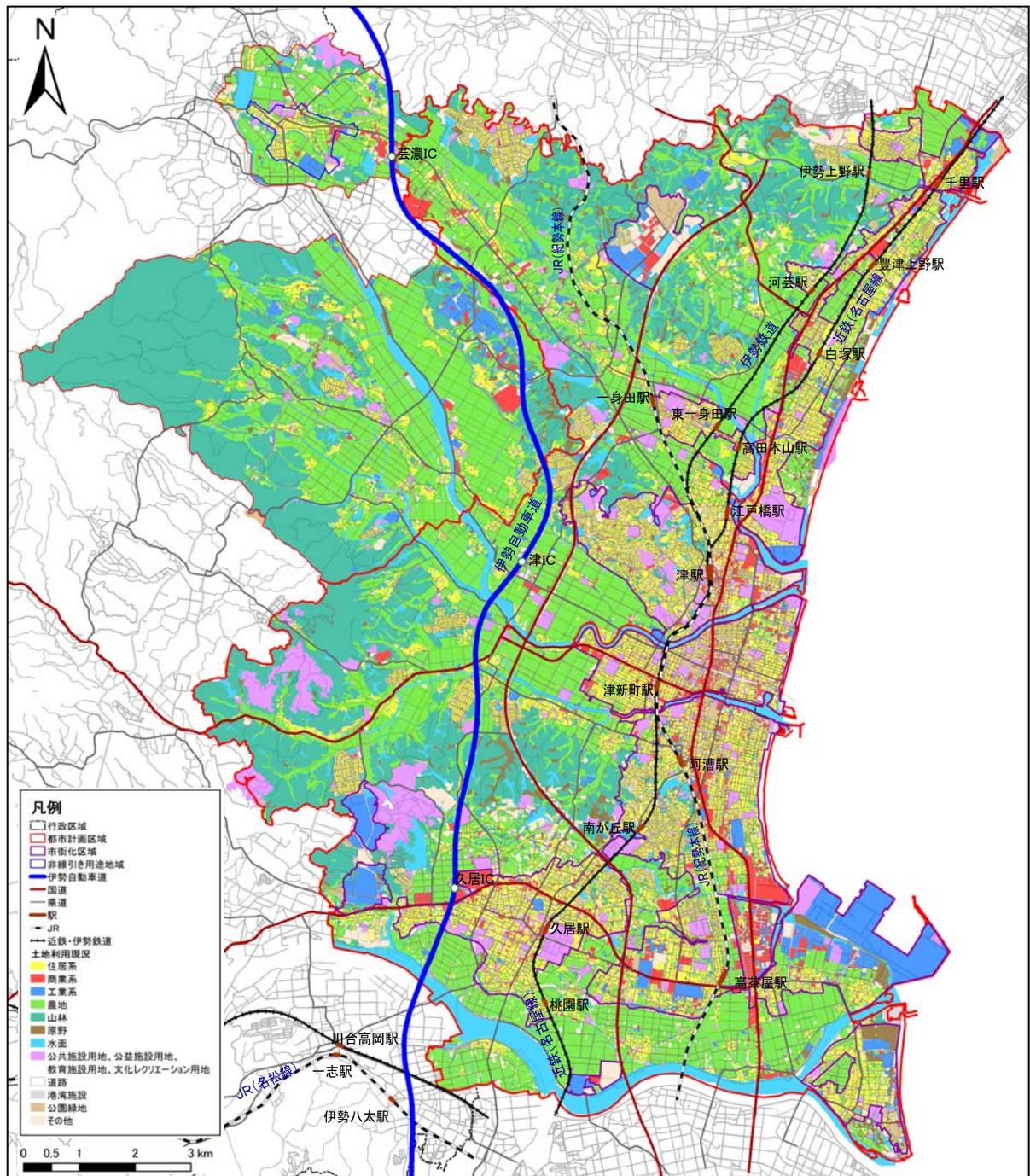
(2) 都市計画区域別の土地利用状況

平成 24 年における都市計画区域別の土地利用状況は、宅地面積が 3,792.2ha、非宅地面積が 15,586.7ha であり、80%以上が非宅地面積となっています。

■都市計画区域別の土地利用状況

	宅地面積 (ha)					非宅地面積 (ha)					合計	
	住居系		商業系		小計	農地	山林・原野	その他	小計		面積 (ha)	割合 (%)
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)					面積 (ha)	割合 (%)		
津都市計画区域	2,231.9	541.4	576.6	3,349.9	22.4	4,266.5	2,766.3	4,584.3	11,617.1	77.6	14,967.0	100.0
安濃都市計画区域	203.3	41.0	82.5	326.8	8.8	1,219.8	1,562.7	583.7	3,366.2	91.1	3,693.0	100.0
亀山都市計画区域	70.1	20.0	25.4	115.5	16.1	295.5	85.8	222.1	603.4	83.9	718.9	100.0
合計	2,505.3	602.4	684.5	3,792.2	19.6	5,781.8	4,414.8	5,390.1	15,586.7	80.4	19,378.9	100.0

資料：都市計画基礎調査 (H24)

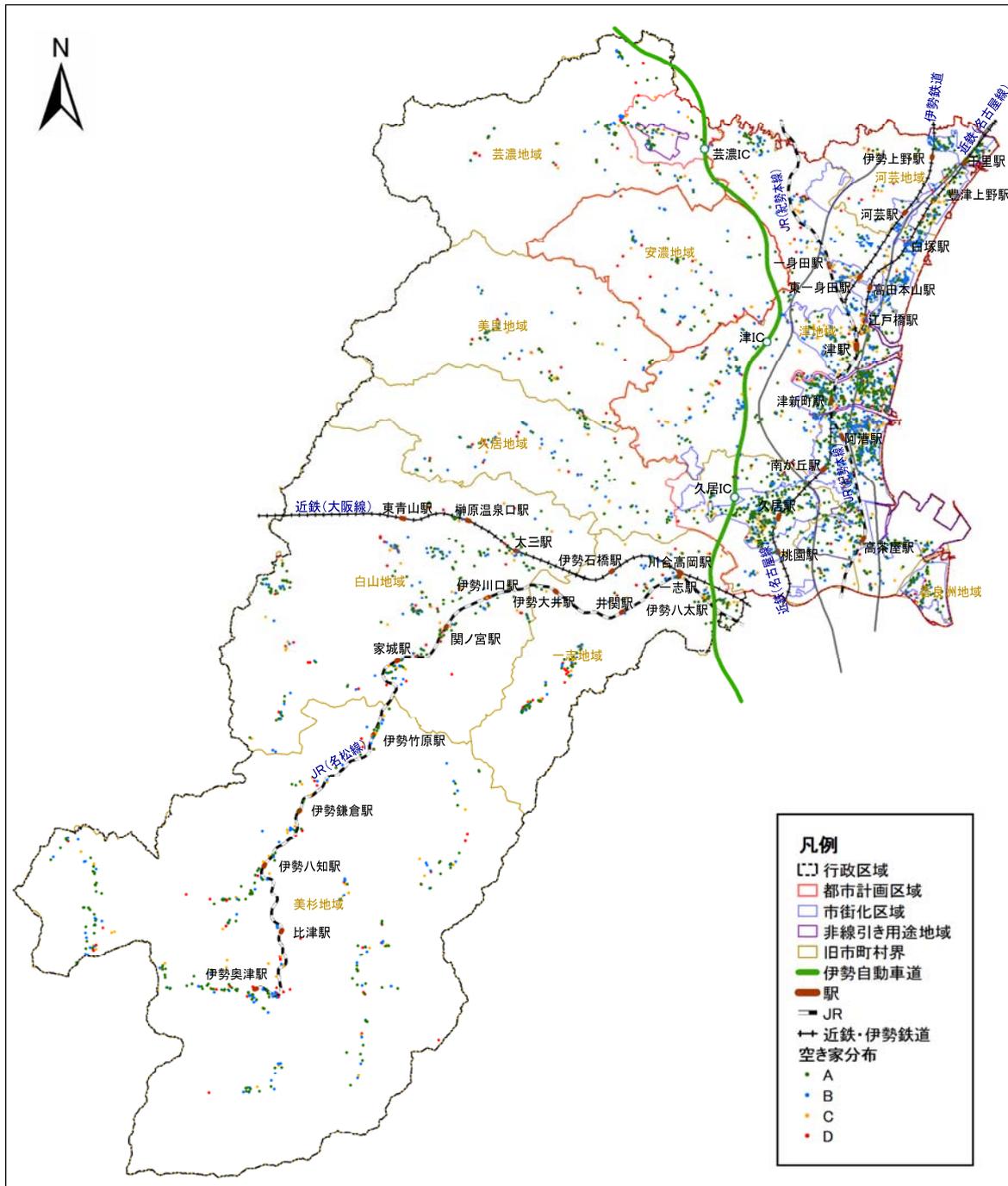
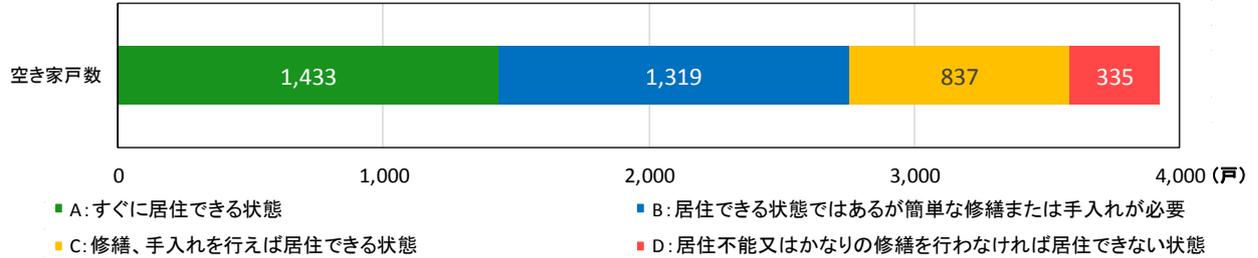


資料：都市計画基礎調査 (H24)

■土地利用の状況

(3) 空き家の分布状況

平成 27 年 7 月から平成 28 年 2 月に実施した空家外観調査結果における空き家の状況は、市全体で約 4,000 戸の空き家が存在しており、そのうち約 7 割が「すぐに」又は「簡単な修繕又は手入れを行えば」居住できる状態となっています。また、分布状況としては、津地域に多くの空き家が分布しています。

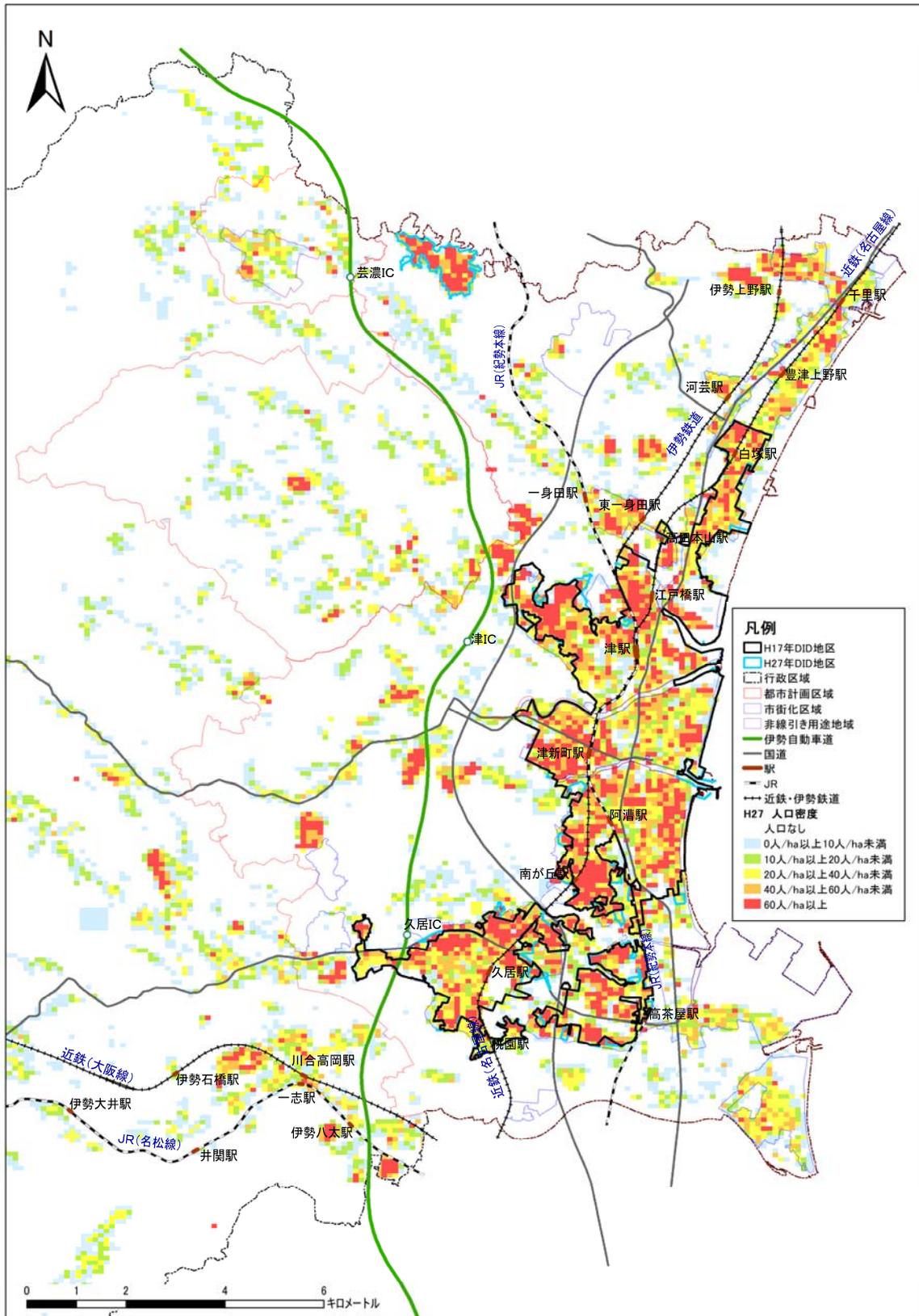


資料：津市空家等対策計画（H29）

■ 空き家の分布状況

(4) D I D (人口集中地区) の変化

平成 17 年時点では鉄道沿線地区を中心に D I D が存在し、平成 27 年には一部の地域で D I D の拡大、縮小がみられます。



資料：国勢調査（H27）

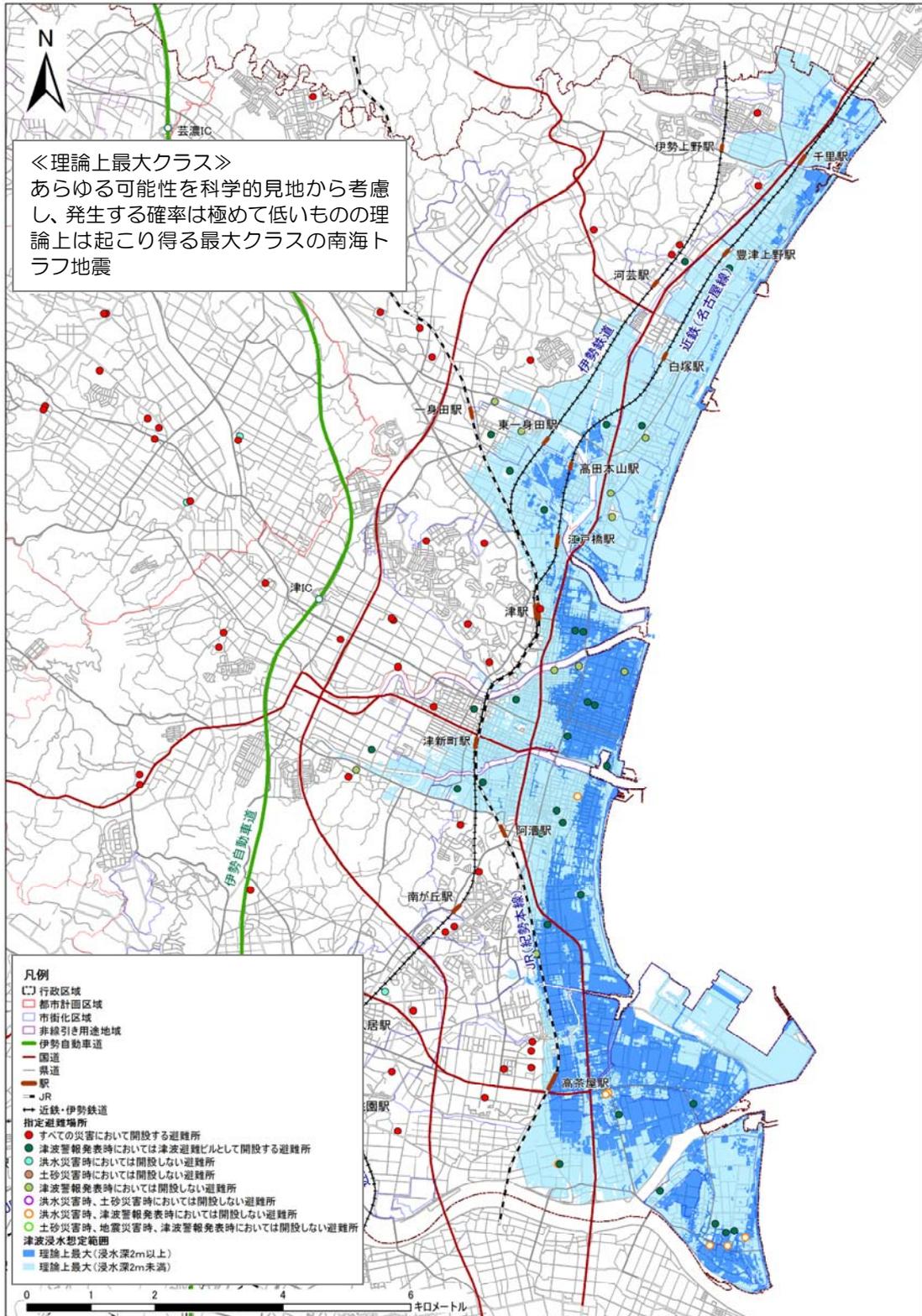
■ D I D と人口密度の状況

3-5 防災関連の状況

(1) 津波浸水想定状況

1) 理論上最大クラスの津波浸水想定状況

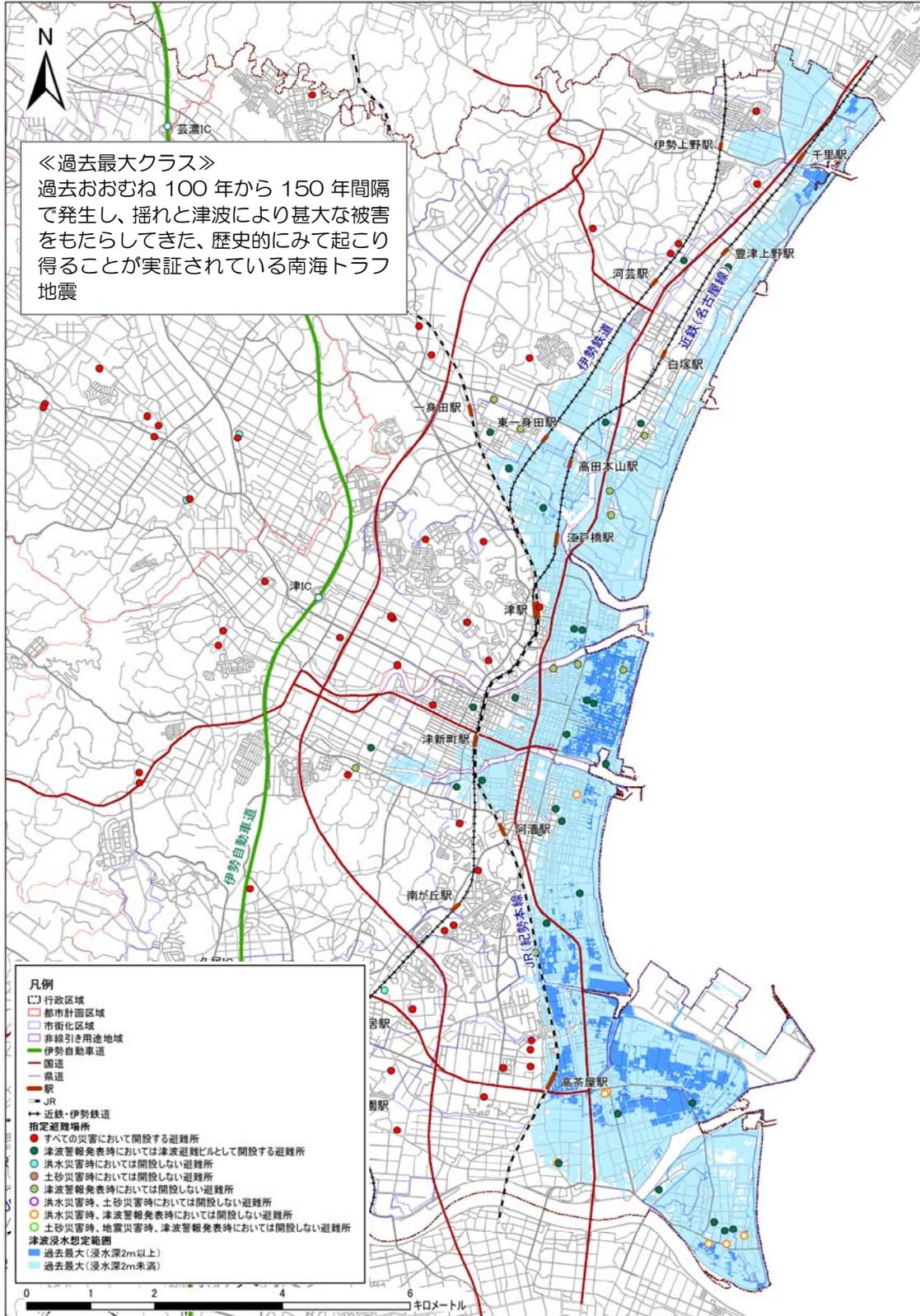
南海トラフを震源とする理論上最大クラスの地震で堤防が破壊された場合を想定した浸水区域は、市内の沿岸部を南北に伸びており、橋北地区から雲出地区にかけての沿岸部の多くが浸水深2m以上の区域と想定されています。



資料：三重県地震被害想定調査結果（H26.3）に基づき津市が作成
 ■津波浸水想定状況（理論上最大）

2) 過去最大クラスの津波浸水想定状況

南海トラフを震源とする過去最大クラスの地震で堤防が破壊された場合を想定した浸水区域は、市内の沿岸部を南北に伸びており、橋内地区の県道上浜高茶屋久居線東側、藤水地区・高茶屋地区のJR紀勢本線東側、雲出地区などにおいて、浸水深2m以上の区域と想定されています。



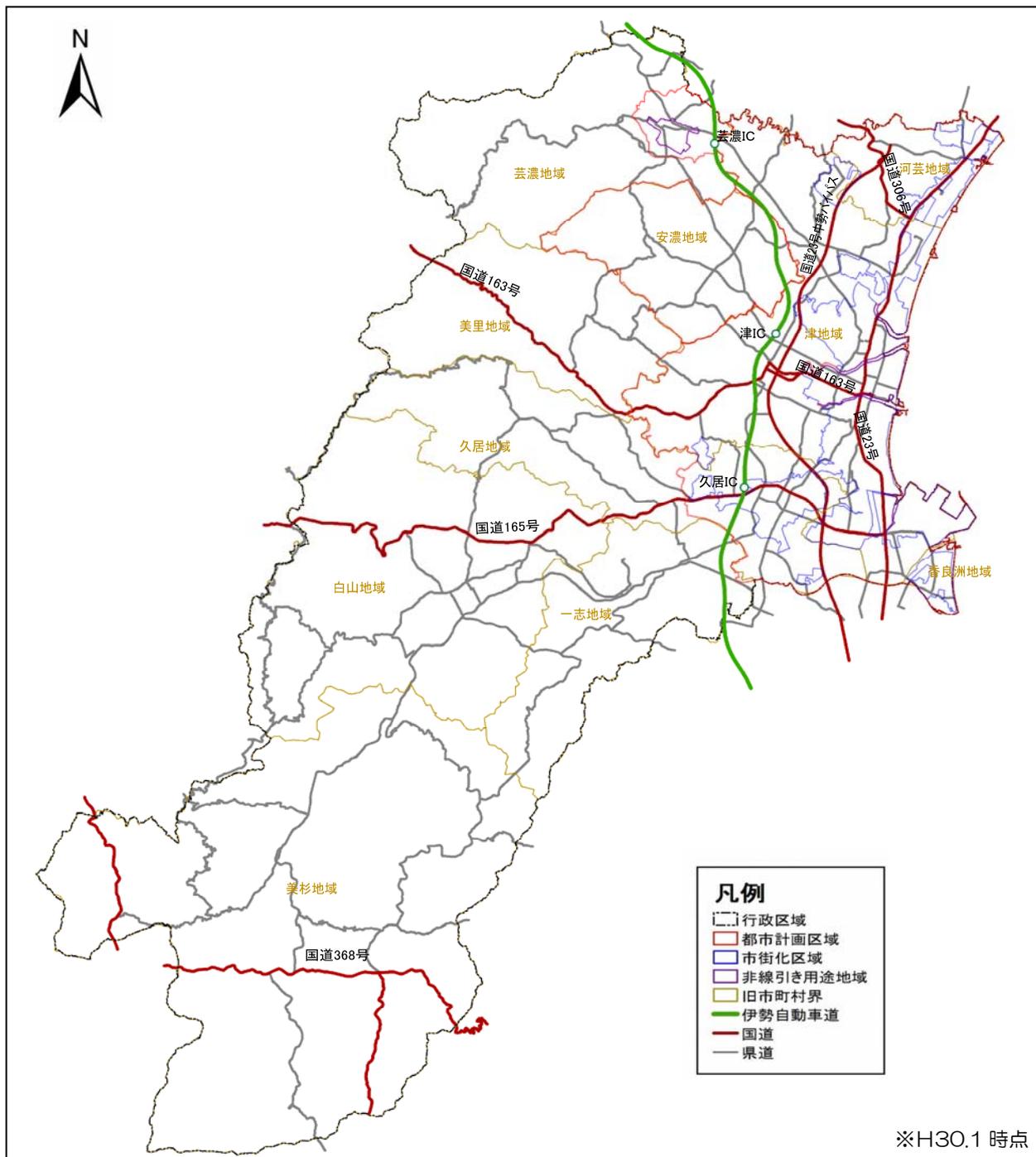
資料：三重県地震被害想定調査結果（H26.3）に基づき津市が作成
 ■津波浸水想定状況（過去最大）

4. 主要な都市施設等の状況

4-1 道路網

(1) 国道等

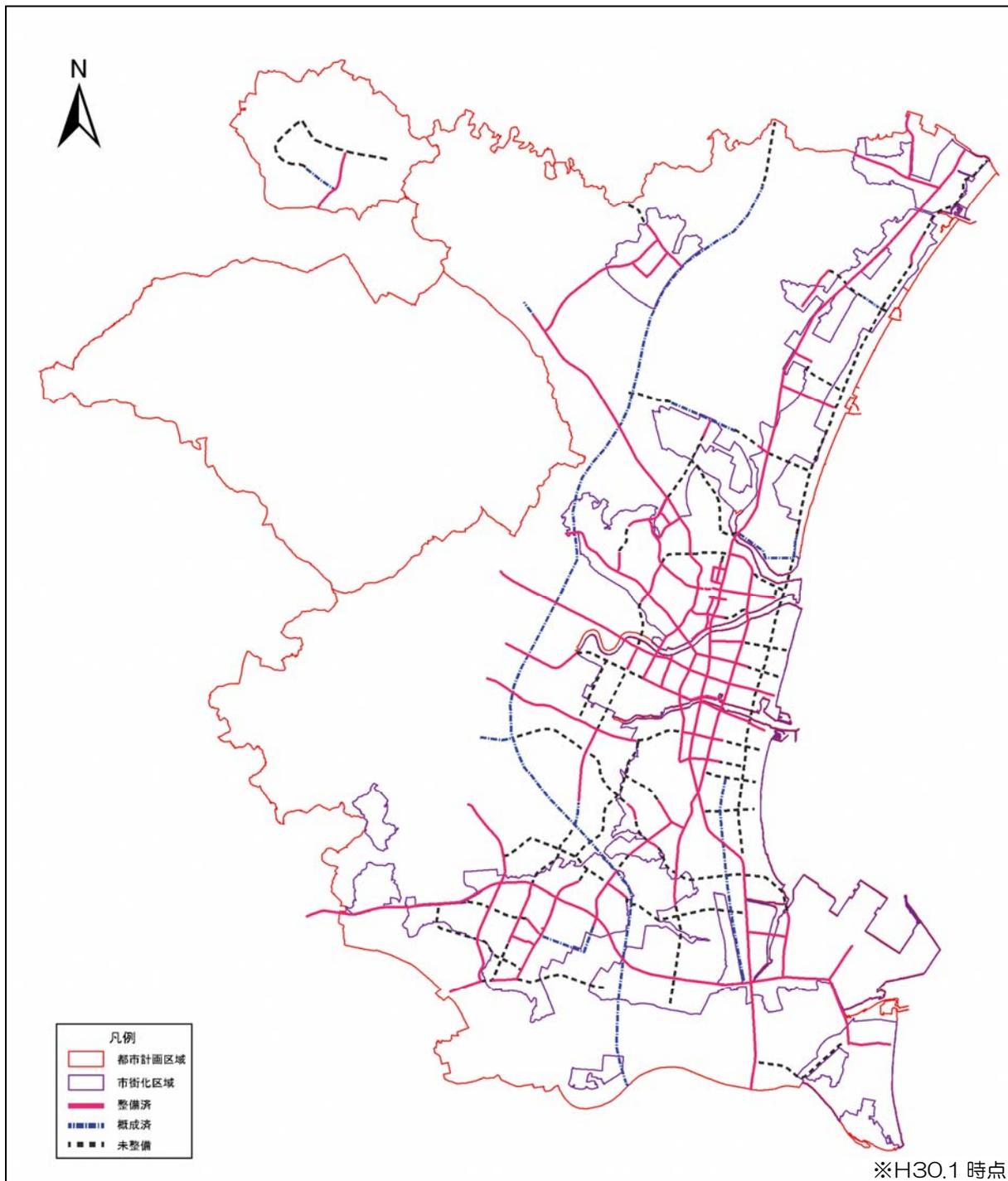
市内の主要道路は、津地域を中心に南北方向に伊勢自動車道、国道 23 号、国道 23 号中勢バイパス、国道 306 号が配置され、東西方向に、国道 163 号、国道 165 号、国道 368 号が配置されており、一般国道を主体とした道路網が形成されていますが、各地域の市街地をつなぐ道路や各地域間を連絡する道路は必ずしも十分に整備されているとはいえない状況もみられます。



■国道等の整備状況

(2) 都市計画道路

津都市計画区域及び亀山都市計画区域（芸濃地域の一部）における都市計画道路は、平成 30 年 1 月現在、64 路線、計画延長約 206,500m です。このうち、整備済み延長は 109,270m であり、整備率は 52.9%となっています。



- ※整備済：都市計画道路の計画幅員のとおりに整備されている整備済みの区間
- 概成済：都市計画道路の計画幅員は満たさないものの、同程度の機能（計画幅員の 2/3 程度）を満たす現道がある区間
- 未整備：都市計画道路の整備が行われていない区間

■都市計画道路の整備状況

4-2 公共交通網

(1) 鉄道

市内の鉄道は、近鉄名古屋線とJR紀勢本線が南北方向に運行しています。また、伊勢鉄道が津地域や河芸地域を通っているほか、近鉄大阪線やJR名松線が白山地域、美杉地域などの山間地域と伊勢湾沿いの市街地を結んでいます。また、香良洲地域、芸濃地域、安濃地域及び美里地域には鉄道は通っていない状況となっています。

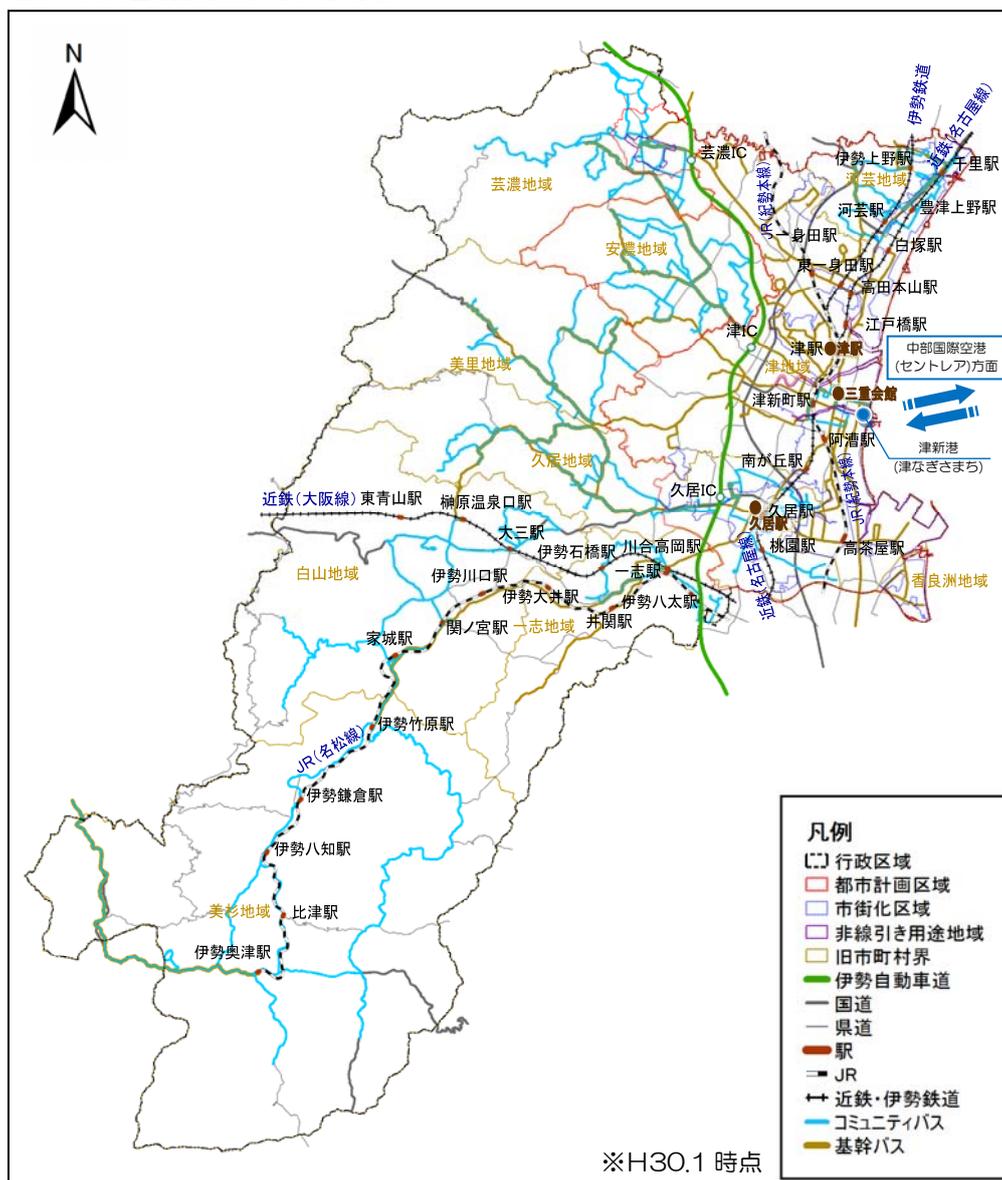
(2) 主要なバス路線

市内のバス路線は、津駅、久居駅、三重会館を主なターミナルとして形成されています。営業路線バスの運行状況からみると、津都市計画区域内での運行が主となっているほか、都市計画区域外の一志地域において運行しています。

また、都市計画区域の芸濃地域、安濃地域、都市計画区域外の地域については、主にコミュニティバスが区域内を網羅的に運行しています。

(3) 航路

平成 17 年 2 月から、津新港（津なぎさまち）～中部国際空港（セントレア）間を約 45 分で結ぶ中部国際空港への海上アクセス（津エアポートライン）を開設し、平成 30 年 1 月現在では 1 日に 15 往復運航しています。



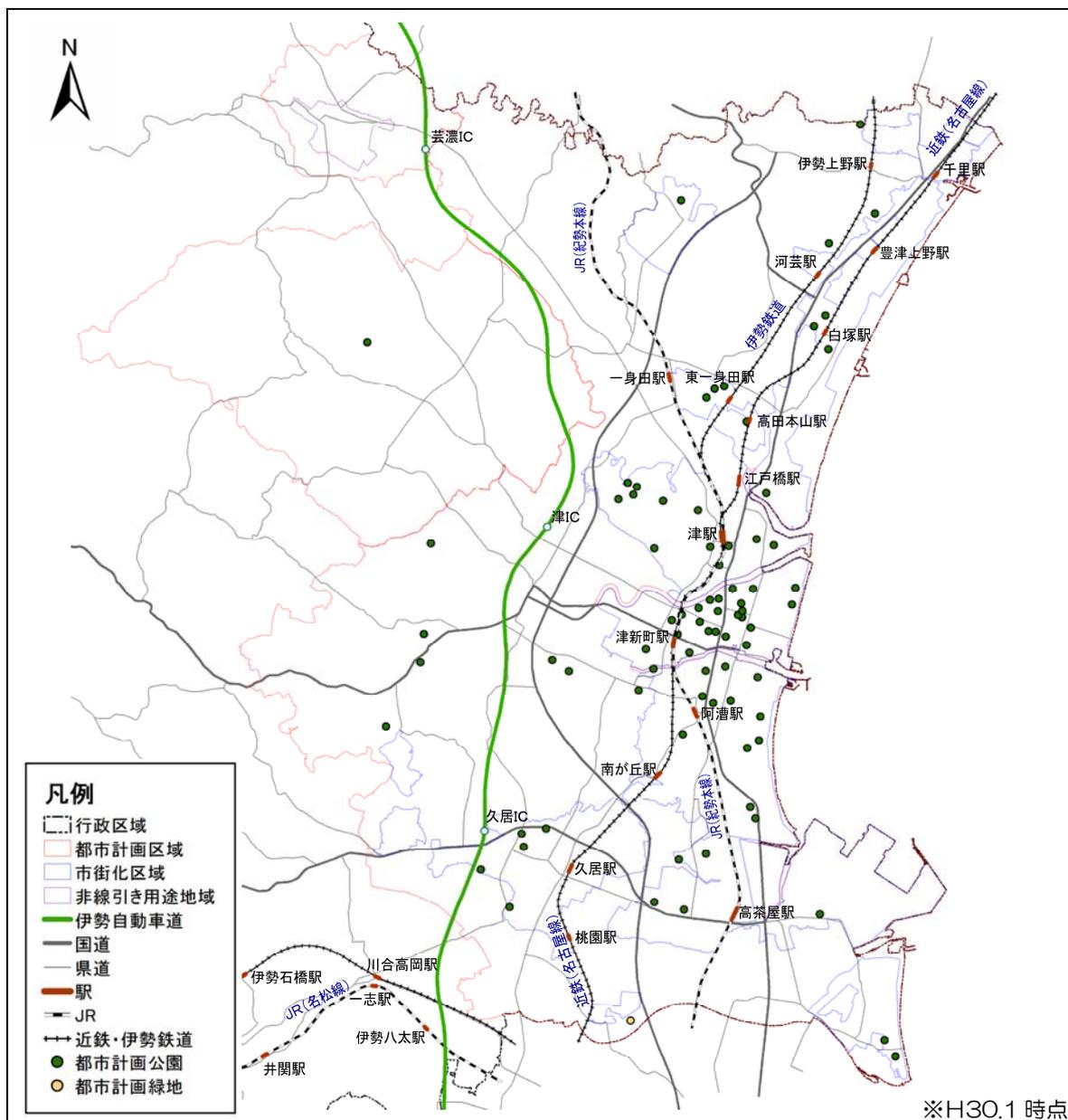
■鉄道、バス、航路の状況

4-3 都市計画公園・緑地

都市計画公園は、総合公園 4 箇所（約 70.8ha）、地区公園 6 箇所（約 37.9ha）、近隣公園 11 箇所（約 14.3ha）、街区公園 60 箇所（約 11.65ha）で都市計画決定されており、平成 30 年 1 月現在、98.2ha が開設されています。また、都市計画緑地は 2 箇所（約 37.0ha）で都市計画決定されており、平成 30 年 1 月現在、1 箇所（14.0ha）が開設されています。都市計画公園・都市計画緑地全体の整備率は約 65.4%となっています。

■都市計画公園・緑地の現況

種類	計画決定面積		開設面積		
	カ所	面積 (ha)	カ所	面積 (ha)	
都市計画公園	総合公園	4	70.80	4	48.53
	地区公園	6	37.90	5	24.17
	近隣公園	11	14.30	11	13.85
	街区公園	60	11.65	60	11.65
都市計画緑地	2	37.00	1	14.00	
計	83	171.65	81	112.20	



■都市計画公園・緑地の分布状況